



○期待

101 号です。新たな気持ちでこれからもジワジワと発行していこうと思います。適当にお付き合いくださいませ。

さて今回の話題ですが、「期待」です。「誰々に〇〇を期待する。」というときは自分が誰かに期待を寄せています。相手はさまざまですね。「我が子の将来に期待する。」のは親であれば皆そうでしょう。「教え子の活躍に期待する。」のは教師であればこれも当然です。仕事をする場合、上司は部下の働きに期待します。「斬新なアイデアを出してくれないだろうか。業績を上げるために活躍してくれないだろうか。」などのことがあるでしょう。野球やサッカーが好きな人であればお気に入りのチームがありますね。ひいきのチームが優勝したときは大きな喜びを一緒に味わいます。

平昌オリンピックが始まります。出場権を得た選手は晴れやかな気持ちとプレッシャーも感じていることでしょう。日本代表の選手であれば国民ほとんどの人が活躍を期待しているでしょうから。活躍の状況によっては称賛があるときもあれば非難を浴びるときもありそうです。現代の情報化社会ではさまざまな意見が飛び交います。平凡な人間である私には想像できないような苦難もありそうです。私が期待するのは悔いのない演技・競技ができたすべての選手たちが思えることですね。

さて、「誰々に〇〇を期待する。」ではなく、「誰々の期待に応える。」という視点でいくつか挙げてみたいと思います。「親の期待に応える・学校の先生の期待に応える・上司の期待に応える・サポーター(ファン)の期待に応える・ふるさとの期待に応える・県の期待に応える・国の期待に応える・・・」などが思い浮かびました。まだまだ多くの場合があると思います。

本校は専門学校ですから私は卒業した学生に期待します。まずは社会人として立派に生きていくことです。それと充実した職業・家庭生活を送ることです。次に期待するのは学生が活躍してくれることによって本校の評価・認知度が高まっていくということです。公立学校勤務の時は本人の活躍のみを期待していましたが、今は私学ですので現実的に二つ目の期待も大きいです。

こども学科の卒業生は今年が 3 期目です。まだまだ歴史が浅いです。同窓会の組織は平成 27 年 3 月にできましたが、まだあまり機能していません。将来的には組織が活性化し、自分は YIC 保育 & ビジネス専門学校の卒業生であるという「誇り」を皆がもっていけるようにできたらと思っています。同級生だけでなく先輩や後輩との関係が広がっていけば、仮に仕事で悩んだ時があっても助け合える場面が増えると思います。そのような形で本校が発展していけることを期待しています。その実現に一番力を発揮してくれる(期待に応えてくれる)のは卒業生の活躍です。大いに期待します。

最後に「自分の期待に応える。」という点です。人それぞれ夢をもっていることでしょう。その夢の実現に最も大きな期待をよせているのは自分でしょう。自分の期待に応えるために頑張るのも自分ですね。自分の道を自分で切り拓いていきましょう。

つぶやき

上記とは違う「期待」です。宝くじを買ったら誰もが皆当選することを期待しますね。しかし当の“宝くじ本人”は購入者の期待に応えるための努力を全くしません。当たるかどうかは単純に“運”ですね。

余談ですが、私は当たらなかった宝くじを愛車に乗せています。

